

令和8年度 ビーライトしんわ／しんわブライト事業計画

I. 基本方針

- ・ご本人とご家族を始めとする周囲の方々が心地よく安心して自分らしい生活を送ることができるよう、さまざまなサービス・支援の提供に努めます。
- ・発達障がい（自閉スペクトラム症、ADHD、LDなど）を含めた、ご本人一人ひとりの支援ニーズに適切に対応すると共に、家庭、学校、福祉、医療といった関連諸機関との連携にも努め、よりよい支援のあり方を探求、模索します。

【事業体系】

対象児	学校教育法第1条に規定している学校に就学しており、授業の終了後又は休業日に支援が必要と認められた障がい児。		
事業名	ビーライトしんわ	しんわブライト	
	放課後等デイサービス事業	放課後等デイサービス事業	発達障害支援体制整備事業
定員	10名(小・中・高生)	10名(小・中・高生)	—
配置基準	常勤換算2名	常勤換算2名	発達障害者地域支援 マネージャー1名 (管理者/児童発達支援管理責任者兼任)
	管理者/児童発達支援 管理責任者1名	管理者/児童発達支援 管理責任者1名	
指定開始日	平成25年4月1日	平成28年4月1日	令和8年4月1日(受託予定)

II. 基本計画

1) 放課後等デイサービス事業

【放課後支援+余暇支援：ビーライトしんわ】

- ・保護者の就労支援とご本人を日常的にケアしているご家族の一時的な休息を目的とした放課後支援及び夏休みなどの長期休暇中の余暇支援に取り組みます。
- ・ご本人一人ひとりの特性に応じた創作活動、各種運動（粗大、微細、協調）やゲーム的な要素を盛り込んだ活動日課、近隣の公園で体を動かす外遊びや散歩などさまざまな活動を提供し、心地よく安心して楽しんで過ごしてもらえるよう努めます。
- ・ご家族との情報共有とさまざまな活動の提供を通じてご本人の特性理解に努め、日常生活や集団場面で必要となる動作やコミュニケーションの習得をサポートします。

【グループ活動による総合的な発達支援：しんわブライト】

- ・ご本人たち同士がお互いにかかわり合うグループならではの活動を通じて、発達のバランスを整えるきっかけづくりに取り組みます。
- ・学校を始めとする集団社会場面での過ごし方やふるまい方を身につけていくことにむずかしさをかかえるご本人たちが、個人の感覚と運動をしっかりと確かめることから、ペアやチーム、グループでコミュニケーションをとりながら協力する課題へと無理なくステップアップしていけるようサポートします。
- ・「楽しい」、「面白い」、「うれしい」といった心地よい感情を引き出し、さまざまな活動に積極的、主体的に向き合う意欲と他者とのかかわる動機を高めます。ご本人たち自身が活動課題の目的と目標を見つけて取り組む中で達成、成功、時に失敗する経験の共有を実感できるようサポートします。さまざまな状況に仲間と共に向き合い、楽しみ、受けとめ、受け入れ、次の機会に活かそうとする意欲と力を育む活動課題の創出と提供に努めます。

[※しんわブライトの地域連携・貢献]

- ・平塚市教育委員会からの委嘱を受け、市内の小中学校の巡回相談及び通級指導教室の運営委員会に参画します。通常級に在籍する発達障害児のほか、集団適応や社会生活スキルの学習にむずかしさを抱えるお子さんの特性を検証し、グループ活動支援を通じて集積した知識、情報、対応支援技術を総動員して、学習環境の整備と、効果的な対応支援や指導カリキュラムの構築、創出に協力します。
- ・湘南西部障害保健福祉圏域発達障害支援体制整備事業を受託し、圏域内の支援機関と支援者をサポートします。問題の発見、定義、共有と関連諸機関との連携をマネジメントして状況の改善や適応的な解決をサポートします。

2) 地域の支援ニーズに応じた事業運営形態の継続的な模索

市内の放課後等デイサービス事業所は現在 40 ヶ所にまで増え、利用の分散、複数事業所の併用、児童発達支援事業併設事業所の増加による就学前からの長期継続利用の主流化、共働き世帯の増加による学童保育代替ニーズの拡大、学習支援・就労準備支援・理学療法・作業療法・言語聴覚療法・心理療法・芸術療法といった細やかな個別ニーズ対応を謳ったサービス支援の台頭など、地域の事業環境は大きく変化しました。ビーライトしんわ、しんわブライト共に新規利用者数は鈍化傾向にあり登録児童数の遞減が余儀なくされつつあります。このような事業環境の中で差別化をはかり競争力を高めて地域社会に貢献する持続可能な事業運営を実現するために下記事項について検討を進めます。

【検討事項】

①ビーライトしんわ/

- ・法人他施設の短期入所や日中一時支援を組み合わせた総合的な支援モデルを提案。施設利用時の情報提供・共有をはかり、ライフステージ、ライフサイクルに沿った支援の在り方の探求と実践を積み重ね、効果的な支援モデルの構築と提案につなげる。

②ビーライトしんわ/受入対象年齢のさらなる拡張可否・是非の検証。

③しんわブライト/報酬単価の増額

- ・発達障がい児支援部門の利用児童の各種発達課題に応じた個別支援を付加して利用時間を延伸することによる時間区分単価の引き上げ可否・是非の検証。
- ・各種加算取得の費用対効果の検証（支援力強化、差別化、収益性などとの総合判断）。

④しんわブライト/発達障がい支援の実践と教育との連携を通じて培った専門性の収益化

- ・湘南西部障害保健福祉圏域発達障害支援体制整備事業（機関支援/支援者支援）受託。
[※令和 8 年度受託予定]
- ・ペアレントトレーニング（養育者教育訓練）、サポータートレーニング（支援者教育訓練）、保護者や支援者が高い関心を寄せる内容での学習会の開催などに対応する報酬や加算の研究。
- ・支援内容に関するわかりやすく魅力が伝わりやすい表現手法の模索。ホームページ掲載、講演や学習会での積極的な発信による認知度向上、興味喚起、利用希望の増加。

⑤しんわブライト/児童発達支援事業を併設することによる受入対象年齢の拡大及び長期継続利用の取り込み。